

戦略的情報通信研究開発推進制度 総務省

《論点案》

1．本制度の位置づけと戦略的な資金配分について

情報通信分野の研究開発については、国では総務省及び経済産業省等の他省庁が関係し、また総務省及び通信・放送機構(TAO)の中でも各種の資金制度やプロジェクトが実施されている。さらに民間が果たすべき役割も大きいと考えられるが、全体の中で本制度が果たすべき役割は明確に整理されているか。

重点6領域ごとに我が国における研究開発の発展段階に応じて、基礎・応用・開発研究あるいは世界標準化等にかかる課題をどのような戦略で採択していくべきか。

2．優れた成果につながる仕組みについて

技術の進展が著しく早い情報通信分野において、優れた研究成果を出していくためには、評価の仕組み(評価者の選定、毎年継続評価実施の是非等)や、研究成果の実用化の仕組みをどのようにしていくべきか。

国際競争力の強化のため、先端的研究水準をどのように確保し、国際的人材の育成、海外先進国との協力等をどのように進めていくべきか。

3．成果等の評価について

配分機関による評価で、資金配分や成果の状況等が十分に把握され、その有効性や問題点が明らかにされるとともに、改善点の明確化や成果等に関する国民への説明が十分になされているか。

本制度は、目的や投入予算に照らして、成果やその他の効果が十分に得られていると判断するか。特筆すべき成果・効果や科学技術上・社会経済上の貢献はどのようなものか。

本制度への投入予算は、その目的や応募課題に照らして妥当か。

《追加質問事項》

1．制度に関する事項

研究費の使用できる時期に関して、初年度は9月からと遅かったが今後どのように改善し、何月くらいから使用可能とする予定か。

研究開始後、毎年継続評価、または中間評価が行われるが、毎年継続評価をする理由、特に初年度と次年度以降の違いについて示されたい。また、3～5年計画の途中(初年度を含む)で計画を終了する場合のプロセスはどうなっているか。

今後特許などの知的財産の管理が、非常に重要となるが、審査、評価、それ以降における知的財産の取り扱いはどのように行うのか。また出願費用などはどのように考えているか。

評価者が自由に意見を述べるために、評価者の個人意見が特定されない等の工夫があるか。また評価者を評価するメカニズムはあるか。

プログラムオフィサーの選考基準はどうなっているか。またプログラムオフィサーはどのような責任、権限を持ち、課題採択にどのように関与するのか。課題採択の最終的な責任はだれが持つのか。

一次審査を担う専門評価委員(ピアレビューアー)の選考は、どのような基準で行われているのか。所属、年齢、経歴などと併せて示されたい。

経費の処理(物品購入、報酬支払い等)についてどのような手続き、処理(伝票等の要求証拠書類)を行っているのか。どのような確認作業を行っているのか。

提案書を地方局に提出した場合、どのような確認作業が行われるのか。

提案要領及び提案書様式を示されたい。

2．課題採択・資金配分に関する事項

国の科学技術のどの部分を担うのか(他省庁などで行われている類似の科学技術研究との役割分担を含む)

総務省の科学技術関係経費全体の中で、本事業の位置づけはどうか。他のプログラム(競争的研究資金を含む)やプロジェクト型研究との役割分担・連携・調整の有無、資金配分の方針・方法はどうなっているのか。競争的資金に分類していないが公募で研究開発を行う事業はあるか。ある場合の事業の性格及び配分金額はどうか。

過去の予算及び決算ベースでの費目別内訳(総額、交付研究費、うち間接経費、管理経費、うち評価関係費、等)はどうなっているか。

大学/独立行政法人(総務系/その他)/民間等(企業/その他)に分けた経年的な応募数と採択数はどうなっているか。

情報通信の分野で、我が国が国の戦略として進めるべき研究(基礎研究を含む)について、総務省としての考えはどのようなものか。

プログラム全体としてハードウェアに関する研究開発とソフトウェアに関する研究開発の資源配分の割合をどのように考えているのか。我が国ではソフトウェアの人材が不足しているとの指摘があるが、このプログラムでは何らかの仕組みでそれを克服しようとしているのか。

重点分野に分けて採択された課題は、基礎、応用、開発それぞれの研究類型に分類されているが、どの類型に重点をおくか等、省としての戦略があるか。領域ごとにどのように考えているか。

国際技術(標準)獲得型研究については、デファクトスタンダードは研究だけではなく、使用実績によることを考えると、本当に効果をあげることができるのか。

国際技術獲得型で取り上げているテーマについて、今後国際基準として使用される見通しがあるという判断はどのようになされたのか。

ピアレビューによる一次審査の結果は、最終的な課題選定にどの程度反映されているのか。

それぞれのプログラムにおいて採択課題の研究代表者の年齢別構成を、金銭ベース、及び課題ベースで示されたい。また、採択された研究代表者の年齢分布は、30代~40代が多いと説明があったが、何らかの意図をもってこのようになされているのか。

個人で行う「研究主体育成型若手研究者向け個人」以外の研究において、研究グループの構成(グループ数、各研究員数)、研究員一人当たりの研究費について示されたい。

研究の代表者が大学院生の場合はあるのか。その場合共同研究者がいれば、どのような所属になっているか。

エフォート管理は行われているか。行なわれている場合のエフォート分布はどうか。どのように確認作業を行っているか

3．研究成果およびその他効果に関する事項

資料 1-1、p21 に示された研究成果の見込みはどのように算定されたのか。

課題採択の総合評価やプロジェクトの継続評価などで費用対効果をはかることになっているが、どのような基準で行うのか。

総務省の政策目標に係わるアウトプット、アウトカムが出ているかについては、どのように判断されたのか。

4．評価結果(意見・結論)に関する事項

投入予算との対比の中で成果、あるいは今後見込まれる成果は十分と考えるか。これまでの資源投入量及び採択課題数は制度目的や提案数に照らして十分といえるか。

今回の評価の結果からどのような問題を抽出し、今後のプログラム改善をどのようにしていこうとするのか。

5．その他

本競争的資金に採択された課題とその評価結果について、政府研究開発データベースへの入力状況。